

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、入所者・利用者・入居者・園児とともに分かち合い、愛と奉仕に満ちた施設、グループホームおよび保育園を実現し、神の栄光と高齢者の福祉、子供達の未来のためにつとめる。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しいケアへの転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
概要			
18年目となる2013年度は、社会福祉法人光朔会オリμπアにとって、また新たな1歩を踏み出す年である。 2013年4月に発達障害者支援センター「オリμπア住吉」をオープンすることにより、法人創設以来取り組んできた発達障害を持つ方々への支援をより具体化することができるようになる。また、高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門の3部門が力を合わせ、これまでの取り組みをさらに充実させるとともに、2014年度以降に計画されている新規プロジェクトへの準備を万全にすることによって、オリμπアの目指す「誰もがその人らしく輝いて暮らすことのできる社会づくり」に貢献する。そのためにも、オリμπアの理念を実践することができる人材を確保し、その育成に注力する。また、オリμπアの取り組みをより多くの方に伝えていくために、各種メディアを活用したPR活動も積極的に行う。日々目まぐるしく変化する社会状況に対応するためにも、常に新しいアイデアをアクションに移していくことにより、新たな福祉のムーブメントを起こしていきたい。2012年度の介護報酬改定による影響等、様々な課題はかかえているが、初心を忘れず、常に新しいことにチャレンジし続けることができるオリμπアである1年にしたい。			
事業計画			
1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門・法人本部の働きを一層充実させ、オリμπアの目指す「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させる。			
2. 新しいケアへの転換 [小規模] : 従来の大規模・画一的なケアではなく、入居者・利用者・園児ひとりひとりがその人らしく輝くことができるように、家庭的な環境の中で小規模・個別的な新しいケアを実践する。			
3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリμπア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献する。			
4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・各大学や大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会・自治会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。			
5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深める。			
6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努める。また、実習生を積極的に受け入れることにより、次世代の福祉の担い手を育成する。			
7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、海外研修を実施する。また、香港・台湾・ベトナムなどのアジアの国々との連携を密にし、これからの世界の福祉の情勢の分析を行う。			
8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努める。			

施設	特別養護老人ホーム オリμπア	報告者	施設長 太西 裕二
事業目標	1.地域における福祉拠点としての役割を確立する 2.財政基盤の確立 3.法人内ネットワークを強化し、多種多様なニーズに対応する 4.挑戦し続ける姿勢 5.人材の育成		
概要			
<p>刻々と変化する社会情勢。多様化する生活ニーズ。それらをしっかりと分析し対応していくことが、求められる時代。そのためにも、これまで以上にオリμπア内の各部門が協働し、複合サービスを提供できる施設としての機能を強化する必要がある。各部の特性を活かしつつ、より機能的に、よりスマートに、そしてよりハートフルに地域福祉の拠点としての役割を確立していく。そのためにも活動の基盤となる財政の安定化。チームとして、個々としてのスキルアップ。法人内、施設内、および地域との協働。活動を支える人材の育成。これらを活動の柱とし、地域に根ざした社会福祉活動を継続的に展開し続け、3年後に迎える開設20周年を、オリμπアに関わる利用者・家族・スタッフそして地域の方々とともに祝えるよう、常にチャレンジし続ける。</p>			
事業計画			
<p>1. 地域包括ケアの拠点となるあんしんすこやかセンターをはじめ、居宅、デイ、サテライトの居宅サービス、特養の施設サービスを組み合わせて提供することで、多様なニーズに対応し、住み慣れた場所で最期まで生ききるお手伝いをさせていただく。また、福祉・介護情報の発信を継続的に行い、中央区地域における地域福祉拠点としての役割を確立していく。地域行事にも積極的に参加し、見学・研修の受け入れも行き、地域の一員としての施設を強くPRしていく。地域の中で活かされ、地域を活かす施設を目指す。</p> <p>2. より質の高いサービスを継続的に提供するためにも、財政基盤を確立する。開設より17年を迎え、ハード面で補修が必要になってきている箇所が多く見られる。また、適切な設備投入を行い、スタッフの身体的負担を減らし、より「寄り添うケア」を実践する。各部単体で、またオリμπア全体として、スケールメリットを最大限に活かしながら、支出を抑え、収入を増やすことにつとめる。</p> <p>3. 理念の実践のためにも、法人内のネットワークをより強固なものにし、『オールオリμπア』としての取り組みに寄与する。『オリμπアらしさ』とは何かを常に念頭に置きながら、横のつながりから足らずを補い、得意とする分野は率先して引っ張り、連携の要となる。また、スタッフ間の交流も深め、やりがいのある仕事作りに繋げる。</p> <p>4. 現状に満足せず、常に新しいことにチャレンジし続ける。新規事業の展開や新しいシステムの導入など、より良い方向へ進むべく、現状の評価と分析に基づいた実践を続けていく。また、昨年度よりの懸案であった新規事業の展開も大きな課題の一つである。介護サービスにとどまらず地域ニーズをしっかりと把握し、展開していく。スタッフ個々も同様に挑戦し続けることにつとめ、意識やスキル・専門性の向上、何よりオリμπアスタッフとしての誇りを胸に自己研鑽に励む。そして、組織としては、その思いに応える役割を与えることが必要である。</p> <p>5. オリμπアの理念およびこれらの事業計画を、継続的に実践していくためにも、担い手としての人材育成が必要である。継続性を考えれば、長年にわたって人材育成を実践するシステム構築も必要である。ひとりひとりが目標を持ち職務に当たること、そしてそれを実現できる職場作りも大きな課題である。各種研修の実施、相談体制の充実、様々な可能性を実感できる機会の創造などを実践していく。</p>			

## 事業計画

2013年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	太西 裕二
事業目標	1.パーソンセンタードケアの実践、「新しい介護」への挑戦 2.地域に根ざした施設づくりを行う 3.質の高いチームケアの提供 4.財政基盤の確立 5.自己成長のための努力を惜しまない				
事業計画					
<p>1.利用者お一人お一人の『思い』や『ニーズ』に寄り添い、単なる『介護者』ではなく、生活のパートナーとしてお手伝いをさせていただく。また、理論に裏付けられたケアを実践し、評価することで専門職としてのスキル向上を目指す</p> <p>2.地域の中にあるホームとして、地域行事への積極的参加や地域住民への情報発信など相互通行の地域コミュニケーションを実践する。同時に、利用者の社会生活基盤としての地域を大切にし、ホームに入居しても社会の一員であり続けられる生活を実現する。</p> <p>3.事業所内多職種、家族、地域、社会資源などとの連携を図り、理念の実践に努める。また、個々のスキルアップを行うことでチームのレベルの底上げを行う。一方でチームの動きを活発にすることで個々の意識変革を促す。</p> <p>4.多種の活動の核となる介護保険事業において、平均利用率102.5%をめざし、財政基盤の安定化を図る。また、新しいチャレンジに積極的に取り組み、基盤に上乗せできる収入を獲得する。</p> <p>5.スタッフひとりひとりがオリンピアスタッフであることに誇りと責任感を持ち、公私ともに自己成長のための努力を惜しまず、常に上を目指すことを心がける。</p>					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2013年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1.年間延べ利用者数7,040人(27.5人/日)を目指す 2.個々の介護・介護予防計画、目標に沿ってケアを実施する 3.職員の意識向上に取り組む 4.ボランティア・実習生等を積極的に受け入れる				
事業計画					
<p>1.年間延べ利用者数7,040人(27.5人/日)を目指す:予算計画に沿って安定した経営の中、介護サービスを最大限に実施する。多様化するニーズに対応し、新規利用者獲得に向けて積極的に営業活動を行う。</p> <p>2.個々の介護・介護予防計画、目標に沿ってケアを実施する:利用者の自立支援に努め、側面から援助をする。各担当機関との連携、カンファレンスを通じ適切なケア、援助を行う。多様なプログラムによって、幅広く利用者の心身機能維持・向上を目指す。</p> <p>3.職員の意識向上に取り組む:ケア、業務内容及びリスクマネジメントの情報共有を徹底する。オリンピアの理念に基づき、職員の意識向上に努める。研修会、他機関との交流を通して得た情報を活かし、利用者、家族のニーズに沿ったケアを実施する。</p> <p>4.ボランティア・実習生等を積極的に受け入れる:他施設、介護体験の一般学生等を積極的に受け入れ、相互向上、地域交流を深める。保育園、幼稚園、小学校の子どもとの交流を深め、相互の活性に努める。トライやるウィーク、地域生徒の受け入れ等、社会学習に協力する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2013年度

施設	オリンピア	部門	サテライトデイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1.年間利用者平均10人/日を目指す 2.広報活動を多様化させる ----- 3.スタッフの定着と情報共有の徹底する				
事業計画	<p>1. 年間利用者平均10人/日を目指す:2012年度は年間平均9.68人となる見込みである。外出行事を数多く盛り込んでいた為、大事をとって欠席される利用者もおられた。2013年度は原点に戻り、集会所での活動に重きをおく。利用者から好評であるレクリエーションを更に探求し、利用者のニーズに合うものを提供していく。その中で手芸やボランティア等を有効に活用し、プログラムに厚みをつけて年間利用者平均10人/日を目指す。</p> <p>2. 広報活動を多様化させる。:2012年度はオリンピアで行われる講演会やイベントと共にサテライトのチラシを渡すという形式で広報活動を行っていた。2013年度はその方法も継続しつつ、サテライトの広報誌を作成し、内容を知ってもらうことで利用者増に繋げていきたい。また集会所周辺施設(保育所や児童館等)との交流活動によってサテライトの存在をアピールする等、広報活動を幅広く行っていきたい。</p> <p>3. スタッフの定着と情報共有の徹底する。:利用者にとってスタッフの交代は不安を招きやすいので、スタッフが働きやすい環境作りを行い長期に渡って働けるようにする。そして利用者一人ひとりの情報をスタッフ同士で共有することで、きめ細かな対応が出来る体制を整えていきたい。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2013年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 認定調査の資質向上を図る 3. 質の高い居宅介護支援 ----- 4. 介護予防マネジメントを行う 5. 介護支援専門員の資質向上を図る 6. 自己評価を行う				
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間1586件のプラン数 要支援者プラン件数242件を目標とする。</p> <p>2. 認定調査の資質向上を図る:認定調査の研修に参加する。また、書類の取り扱いは慎重に行う。</p> <p>3. 質の高い居宅介護支援:月1回は自宅訪問を行い、状況把握し、モニタリング記録の作成する。ケアカンファレンスを行い、サービス提供事業所や家族と連絡を取り、情報の収集をし、プランを作成する。また、在宅での生活が安全に継続できるように援助し、見守っていく。</p> <p>4. 介護予防マネジメントを行う:地域包括支援センターから委託を受け、プラン作成を行う。</p> <p>5. 介護支援専門員の資質向上を図る:研修に参加する。また、社会資源を活用し、情報の収集に努めプランに活かす。</p> <p>6. 自己評価を行う:改善の必要のある項目(自己評価シート)に関しては改善に向け取り組んでいく。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア	部門	地域包括支援センター	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者の相談窓口として、位置付けの充実 2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開 ----- 3. 財政基盤の確立 4. 職員資質の向上				
事業計画	<p>1. 高齢者をはじめとする地域住民が「いくつになっても安心して生活できる地域」づくりのための相談窓口としてセンター周知の独自チラシを作成し配布するとともに、圏域内病院待合室を借りて無料相談会を実施した。2013年度以降も地区ごとの出張相談会を実施する予定。2. 介護リフレッシュ教室や認知症理解のための情報発信や啓発を行い、法人独自の企画・運営を継続し、地域密着型のセンター運営をする。地域内の認知症サポーター店との繋がりを大切に、月1回は各店舗を訪問した。2013年度もサポーター店が増えるよう取り組んでいく。また、中学生の福祉体験授業ではオリンピア施設での体験学習に加え、地域の給食会に参加し、高齢者理解や異世代間交流が深められるように繋いだ。</p> <p>3. 介護予防プラン件数は、年度当初、月間250件を目標にしていたが、260件台まで増え、目標を到達した。神戸市から予防プラン担当件数の上限が課せられたため、委託件数が100件近くなり、委託事業所数も30を越えた。2013年度は月間270件を予算目標にし、予防支援プランナーを1名、採用する。4. 神戸市主催の研修、特に地域診断研修を受け、次年度以降の事業目標や地域ケア会議等の計画策定に資することができた。また主任ケアマネや現任者研修などケアマネ資質の向上や認知症、介護サービス制度の知識を深めることにも取り組んだ。</p>				

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 利用者の生活の質の向上 3. 地域との交流 ----- 4. スタッフの資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践		
概要			
<p>2012年10月、オリンピア灘はオープンより10周年を迎えた。今年度は初心に戻り、更なるチャレンジの年とする。</p> <p>10年間で培った数々の実践を礎に「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念に基づいたケアに取り組み、更に利用者の可能性を最大限に引き出すケア、利用者が主体となった生活のお手伝いを今後も心掛けていく。</p> <p>職員が自発的に自身のレベルアップを目指せるように、法人内外の様々な研修を自分のキャリアに応じて受講することができる機会を設けるほか、その学びが日々のケアの中で実践できるように、ホームとしてバックアップを行う。また、地域に開かれたホーム、地域に根ざしたホームとして、誰もが気軽に立ち寄り、相談することができる、地域の認知症ケア拠点となるよう、取り組みを継続していく。</p>			
事業計画			
<p>1. 財政基盤の確立：収入の安定を図り、事業運営を円滑にする。そのために、入居者・利用者の利用率を高めるとともに、体調の変化による入院等のリスクを減らし、安定した利用率をキープする。常に入居者・利用者ひとりひとりの状態を的確に把握し、迅速に対応する。また、2012年度に対象となった灘区の「地域力を高める」活動助成など、様々な助成金にもチャレンジできるように、情報に対してアンテナを張り巡らせる。</p> <p>2. 利用者の生活の質の向上：「生活の主人公」である利用者が、1日1日をその人らしく充実して過ごしていただけるよう、お手伝いする。日々の何気ない会話の中から、入居者・利用者の「したいこと」「出来ること」を的確に把握し、職員間での情報の共有を図る。また、グループホームに入居していても、夢をあきらめるのではなく、新しいことにチャレンジしていただけるように、支援を行う。さらに、グループホームのユニット内で実施している、「共用型デイサービス」のメリットを活かし、入居者と利用者との関係づくりに取り組む。その他、入居者・利用者の夢や希望について情報収集を行い、旅行やふるさと訪問など、「夢のプロジェクト」にもチャレンジしていきたい。</p> <p>3. 地域との交流：日々の散歩や買い物等の外出を積極的に行うとともに、地域で行われる行事にも参加する。またSalon de l'Olympia Nada等のプログラムを通して地域の方をお迎えし、地域の一員としての役割を果たしていく。常に様々な情報を発信し続けることによって、地域から必要とされ、地域に開かれたホームとなれるように努める。また、高齢者だけではなく、幼児から大人まで様々な方々に気軽に入出入りできるようなホームを目指す。さらに、実習生・ボランティア・見学者等の受け入れも、積極的に行う。</p> <p>4. スタッフの資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践：スタッフ全員が「オリンピア灘の理念・3つの約束」を理解し、ケアする上での礎とし、日々理念に基づいたケアを実践する。また、オリンピア灘での取り組みやその成果を、「新しいケア」としてさまざまなメディアを通じて外部に発信する。また、スタッフ全員がそれぞれのキャリアや希望によって積極的に法人内外の研修に参加し、スキルアップを図ることができるように支援する。特に、リーダーが中心となって実施しているパーソンセンタードケアの勉強会を継続し、認知症ケアを理論の面からも学ぶことによって、よりよい実践につなげる。</p>			

事業計画

2013年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 入居者の生活の質の向上 3. 地域との交流				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立: 年間の稼働率を98%以上を目標とする。日々の健康管理、衛生管理を徹底し、小さな変化に気付ける観察力を一人一人のスタッフが持つ。入院者が出た時は、本人・ご家族・主治医との連絡を密にし、入院によるダメージが最小限に済むよう迅速に対応する。</p> <p>退居者が出た後の空室期間を10日以内での入居を実現する。また、新しく開所予定のグループホームのスムーズな入居に結びつけられるように、定期的に入居申込書の整理を行う。</p> <p>2. 入居者の生活の質の向上: 入居者お一人お一人の持てる能力を最大限に発揮していただけるように、定期的なカンファレンス、ケアの見直しを行う。入居者お一人お一人が様々なことにチャレンジしていただけるようお手伝いさせていただく。</p> <p>3. 地域との交流: 日常的に散歩や買い物等に出掛けたり、地域の行事等に積極的に参加するとともに、オリンピア灘で行う行事を積極的に案内し、地域の方々にも参加していただき、交流の場となる。高齢者だけではなく、幼児から大人まで誰もが自由に入出入りできる交流の場となる。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2013年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立: 年間利用平均2.5人／日以上を目標とする。定期的に地域や居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンター等へのPR活動を行う。全職員は「コーポレート・アイデンティティ」を共有し、全職員が情報の発信源となる。</p> <p>2. サービスの質の向上: 共用型デイの特徴を最大限に発揮し、グループホームの入居者と一緒に、家事や外出等様々なことに、チャレンジしていただくお手伝いをさせていただく。</p> <p>利用者お一人お一人の趣味、特技を把握し、利用時に趣味特技を披露していただけるよう準備させていただく。</p> <p>グループホーム入居希望の方には待機期間をグループホームの入居者、スタッフとの馴染みの関係を作り、グループホームの生活に慣れていただき、入居時にスムーズな入居に結びつける。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要	<p>オリンピア兵庫開設より9年を迎える2013年度は、10周年という大きな区切りに向けた大切な準備の時期である。これまでの取り組みをふり返し、検証し、土台を確固たるものにした上で、新たな一歩を踏み出すことが求められる。そのために、「利用者ひとりひとりの"その人らしい"暮らしのために」という理念にもう一度立ち返り、ケアのあり方、組織のあり方を徹底的に見直していく。スタッフひとりひとりの能力に頼るだけでなく、長期的に効率的、安定的な組織運営ができるように、人材育成およびシステムづくりに注力する。また、積極的な地域交流や地域に開かれたイベントを行うことにより、オリンピアのアクションが人と人とを繋ぎ、地域を動かしていくことができるように、固定観念にとらわれることなく、新しいことへのチャレンジを続けていきたい。</p>		
事業計画	<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることを可能にすることが、小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は、小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」本来のあり方を追究する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより、複数サービス利用者の増加に繋げるほか、それぞれのユニットがビジョンを持ち、切磋琢磨しながら、より高い質のケアの実践に取り組む。</p> <p>2. 広報活動の強化:「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌・テレビ等各種メディアに対して積極的にプレスリリースを発出するほか、地域へのポスティング、戸別訪問を実施する。また、スタッフひとりひとりが積極的に外部の組織に参加し、人的ネットワークを拡げることにより、オリンピアの取り組みをより多くの人に浸透させる。さらに、Salon de l'Olympiaなどのイベント、Cafe Olympiaを活用することによって地域に開かれた施設づくりを行うほか、ボランティアや実習生、見学者などを積極的に受け入れることにより、地域への啓発活動にも努める。</p> <p>3. 財政基盤の確立:安定した施設運営を行うために、財政基盤を確立する。時代状況の変化、制度改正などに際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集と迅速なを行うとともに、新たな収入源の可能性についても検討する。また、徹底したコストの見直しを定期的実施することにより、効率的な運営を目指す。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦:地域の声に常に耳を傾け、いまオリンピア兵庫の力が必要とされているニーズに対して、積極的に新しいプロジェクトを立ち上げていく。プロジェクトメンバーには若手の人材から思い切った登用を行い、将来のステップへの備えとする。</p> <p>5. 人材の育成:オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来のマニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることができる人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。また、仕事の場以外でも自分を磨き成長させることができるようなチャンスを提供する。特に、ユニットリーダー以上のポジションのスタッフには、自分の後継者を複数育成することを課し、継続できる組織づくりを行う。</p>		

## 事業計画

2013年度

施設	オリンピア兵庫	部門	グループホーム	報告者	市田 恒夫
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 財政基盤の確立 ----- 3. 新規プロジェクトへの挑戦 4. 人材の育成				
事業計画					
1. 「小規模多機能ケア」の確立:利用者ひとりひとりに対し、オリンピア兵庫の理念の「生活の主人公は利用者ご本人です」をテーマとして、パーソンセンタードケアを学びつつ、ケアの実践に活かす。また、時に応じて、ケアカンファレンスを行い、ご本人、ご家族、スタッフの意見を出し合うことでお互いに理解しあう。					
2. 財政基盤の確立:年間稼働率目標を98%とする。(衛生面の環境整備システムを構築することで稼働率の安定をはかる。)また、新たな収入源の可能性について検討する。支出の削減方法も考え 実践していく。					
3. 新規プロジェクトへの挑戦:常にアンテナをはり、新たなプログラム、行事のアイデアをだし実践し、利用者の方に楽しんでいただく。同時にそこからオリンピア兵庫全体、オリンピアの新規プロジェクトへと成長させていく。					
4. 人材の育成:オリンピアの目指す新しいケアのあり方を身につけるために、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修に積極的に参加させる。また、仕事の場以外でも自分を磨き成長させることができることを見つけ、スキルアップとともに、それぞれの人間性を向上をさせて将来のステップへの備えとする。					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2013年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ショートステイ	報告者	長谷 順二
事業目標	1.財政基盤の確立 2.サービスの向上 3.スタッフの資質の向上 ----- 4.地域に密着した運営				
事業計画					
1.財政基盤の確立:年間利用率の目標を100%以上として、常に高い収入を確保することにより、財政基盤を確立する。安定した運営を行うため総利用者数を各月50名以上を確保する。随時の新規利用者を確保すると共に各部門の中継地点として入所部門への繋ぎの役割を担い、法人全体の収益を底上げしていく。					
2.サービスの向上:パーソンセンタードケアを基盤としたご利用者お一人お一人に合わせたケアを実現。ご利用者ご家族からの希望や訴えに即時対応を行い、外出や行事を随時企画していくことで、安心できる生活の中で充実感、達成感を提供していく。その方らしい生活の質を上げていくために、ケアプランの作成と遵守を行う。					
3.スタッフの資質の向上:光朔会の理念や歴史を学び、全ての職員が光朔会の一員であることを自覚し、プロとしての責任を持って行動する。内外の研修に参加し、幅広い視野を身につけるとともに、部門内で接遇を勉強する機会を設け基本的な接客スキルを高める。行動がご利用者の生活を高めることに繋げていく。					
4.地域に密着した運営:地域の商店やイベントを利用し、地域の方々との関係を築いていく。各種行事に地域住民を招待し、地域に開かれた運営を目指す。地域に根ざしつつあるCafe事業などを活用し情報発信を行う。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2013年度

施設	オリンピック兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化				
事業計画					
1. 2013年度収入予算の達成へ向けた利用者確保					
a. 対外的な活動参加による施設認知度の向上					
b. 具体的な収入目標の設定(単位:千円)					
4月 3,475 5月 3778 6月 3,140 7月 3,755 8月 3,472 9月 3,259					
10月 3,792 11月 3,307 12月 3,140 1月 3,140 2月 2,973 3月 3,897					
2. 地域との密着					
地域との交流イベントを開催し、地域コミュニティ拠点造りを推進する					
区役所が主催する地域ケアネット活動との連携を深めて行く					
3. 人材育成の強化					
法人内他施設との交換研修制度を確立し、連携を強化する					
研修、実習生の受入を通して、自己研鑽を行う					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2013年度

施設	オリンピック兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 新規利用者の獲得 3. 外部・地域との交流 4. 介護支援専門員としての資質向上 5. 利用者の尊重				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:2013年事業所予算を達成するように努める。					
2. 新規利用者の獲得:新規利用者を要支援、要介護に関係なく率先して引き受けていく。					
3. 外部・地域との交流:地域のあるすこ連絡会、兵庫区ケアマネジャー連絡会等に可能な限り参加し、他のケアマネジャーとの交流機会を確保し情報収集に努める。また、地域との関係強化を行い、地域資源の発掘に取り組み、利用者の生活の質を向上できるようにする。					
4. 介護支援専門員としての資質向上:外部、内部で実施される研修に積極的に参加し、最新の介護保険に関する情報収集とケアマネジメント能力の向上を図る。					
5. 利用者の尊重:利用者の希望する生活が維持できるようアセスメントによって適切なサービスを導入する。利用者一人一人のニーズに合わせ、他職種との連携を図り、柔軟な対応を行う。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック都保育園	報告者	園長 紙屋 直美
事業目標	1. 保育内容の充実 2. 地域子育て支援の充実 3. 職員の資質向上 4. 関係団体との連携		
概要			
<p>2013年度、オリンピック都保育園は開園9年目を迎える。今までは漠然ととらえていた、オリンピック都保育園で育ち、巣立っていく子どもの姿が、8年を経て、子どもにも保護者にも私たち職員にもはっきりと見えるようになってきた。オリンピック都保育園で育った子どもは、「自分を信じ、自分が持つ力を最大限に発揮し、自分らしく歩める子ども」だと。今年度も全職員がイエス・キリストの愛と方針の精神をもって、オリンピック都保育園らしい保育ができるように努める。</p> <p>また、待機児童の多い灘区にある保育園として、待機児童解消の役割を担うとともに、一時保育事業の積極的な受け入れ、質の高い保育サービスを提供していく。</p>			
事業計画			
<p>1. 保育内容の充実：子どもの育ちを支援するために、子どもの24時間を見通した生活をデザインすることが必要である。そのために、保護者と保育園が信頼関係を築き、子どもへの思いを重ね合わせ、ひとりひとりに応じた保育計画をたてる。障がい児保育、長時間保育、一時保育等の事業としての大きなニーズに伝えていくとともに、ひとりの保護者、ひとりの子どもが発信した小さな声にも敏感に耳を傾けるていねいな保育を心がける。一年間のあそび(行事)において、それぞれの年齢が経験すべきねらいを明確にし、見通しをもって取り組む。</p> <p>2. 地域子育て支援の充実：一時保育の環境の見直しをおこない、一時保育児の生活・あそびの保障に努める。未就園児親子に向けての従来のプログラムに加え、親子で楽しめる講座、母子分離をして親がリフレッシュできる講座を企画する。灘区子育て応援プラザと連携して親子ふれあい遊びを計画する。地域にはまだまだ本当に支援を必要としている親子が埋もれているかもしれない。地域の子育て支援拠点の責任として、そのような親子の掘り出しをおこない支援にあたる。</p> <p>3. 職員の資質向上：ひとりひとりの育ちを支える、個人を尊重するという観点から、全職員が社会福祉法人光朔会の理念を学びなおす。また、子どもの最善の利益を図る児童福祉施設として、子どもの権利・子どもの人権について学び、遵守する。保護者との信頼関係構築のため、コミュニケーション理論・カウンセリング理論を学ぶ。経験年数や立場・役割に応じた目標とねらいを明確にし、それぞれがPDCAサイクルを意識して保育をおこなう。</p> <p>4. 関係団体との連携：神戸市私立保育園連盟・キリスト教保育連盟・聖公会保育連盟等の研修や事業に積極的に参加、参画する。神戸市、兵庫県の子育て支援事業の積極的な受け入れをおこなう。保育士不足が叫ばれているなか、養成校との連携を深め、実習生の受け入れ・指導をおこなう。また、実習生を受け入れる新たな養成校を開拓する。次世代育成プログラムとしての地域中学校・高校のトライやるウィーク、ワークキャンプ、ボランティアを受け入れる。地域にある保育園として、地域のお支えに感謝し、地域行事への子どもの参加、職員による地域清掃活動を引き続きおこなう。</p>			

施設	オリンピア神戸北保育園	報告者	園長 山村 直美
事業目標	1.保育内容の充実 2.地域子育て支援の充実 3.職員の資質向上 4.関係団体との連携		
概要	<p>開園より4年目を迎える2013年度は、定員増で130名となり園舎も増築をしてのスタートとなる。</p> <p>これまでの取り組みを振り返り、新たな保育を展開するために、「キリスト教に基づき愛と喜びと奉仕の精神を持って保育を行う」という理念にもう一度立ち返り、保育の在り方を見直していく。</p> <p>子ども一人一人を大切にするのはもちろん、保護者対応も誠意を持って行き、保護者と共に子どもの育ちを支え見守ることができるようにする。職員が自分の課題を見つけ研鑽を重ねる事ができるように、研修も重ねていく。在園児以外の子育ての応援や地域に求められる保育園としての在り方も意識し、積極的に進めていきたい。</p>		
事業計画	<p>1.保育内容の充実:法人の理念・保育園の理念を再確認し、子どもの権利と幸福と保護者の希望を見据えながら、子ども一人一人が健康な心と身体で楽しく過ごすことができるように保育を行う。</p> <p>園の保育を伝えながら家庭保育についても話を聴いたり、保育参加をしてもらったりして家庭と共に保育を進める。又育児相談も行い保育のプロとして支えていくようになる。すこやか児は勿論、気になる子どもについて、研修等を積極的に受け、共通理解を持ちながら対応していく。</p> <p>今までの保育を振り返り、よりよい保育が展開できるように職員全員で取り組む。</p> <p>2.地域子育て支援の充実:待機児童の対応として定員をこえての受け入れをする。又一時保育についても、就労・出産・保護者の疾病・リフレッシュと保護者のニーズを理解し、受け止めながら対応していく。</p> <p>子育て広場・スマイルサークル等好評だったプログラムを続けながら、新規のプログラムも検討し子育て応援事業を充実させていく。公園等で地域の親子にも気軽に声をかけ、子育て支援や一時保育について知らせ、参加者や利用者を増やしていく。</p> <p>3.職員の資質向上:キリスト教保育の実践者としての自覚を持ち、一人一人の子どもの成長や心情をくみ取りながら丁寧な保育を心がける。子どもと共に成長しようと常に向上心を持つ職員集団となるように、課題を持ち研鑽を重ねながら保育を進めていく。いろいろな考え方があるが、その時々の子どもにとって最善の内容となるように話し合い、お互いに協力しながら保育を進めていく。正規。非常勤にかかわらず、職員全員で子どもについての共通理解を持ちながら保育を行う。保護者対応も丁寧に行い、子どもや子育てについて一緒に考えたり喜び合ったりできる関係を築いていく。</p> <p>安全管理について意識を持ち、気づいたときはその都度確認し、話し合いや改善を行いながら進めていく。</p> <p>4.関係団体との連携:地域のイベントや清掃等に積極的に参加し、地域との関係を大切にする。</p> <p>地域の方に園の行事に参加してもらい、感謝を伝えながら、保育園についての理解を深めてもらう。</p> <p>保育実習・トライやる・ボランティア等を受け入れる。</p> <p>連盟(私立保育園・聖公会保育園・キリスト教保育園)の研修への参加や、子育て支援講座や公開保育等の支援・協力を行う。</p>		

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア神戸西	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. 地域に根付いた高齢者総合福祉施設を目指す 2. 財政基盤の確立 3. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開 4. スタッフの資質向上 5. 新たなプロジェクトの発掘		
概要	<p>オリンピア神戸西の開設より、4年目を迎えようとしている。3年目に2室の増床も認められ、現在、定員は、22名。昨年は、入退院が多く、ほぼ、1年間を通して、空床用のショートステイ利用での対応を行った。入退所での入れ替わりも数件あったが、稼働率は、年間を通して、ほぼ100%を維持し、推移できた。3年をかけて、少しずつではあるが地域から必要とされる施設に成長しつつあると嬉しく感じている。但し、この現状に甘んじることなく、全体の底上げ、スタッフのスキルアップを真摯に取り組み、土台を確固たるものにしていきたい。そのために、「利用者ひとりひとりの“その人らしい”暮らしのために」という理念にもう一度立ち返り、一人一人に寄り添う、パーソンセンタードケアを実践する。日々の取り組みが、光朔会の羅針盤から外れないようにし、財政基盤の確立を図っていく。</p>		
事業計画	<p>1. 地域に根付いた高齢者総合福祉施設を目指す：小規模多機能ケアのパイオニアであるオリンピア兵庫をモデルにし、地域に根付いた高齢者総合福祉施設を展開していく。入所部門の特別養護老人ホーム、在宅支援の多機能ホーム、居宅介護支援事業所、神戸市の委託事業で、シルバーハイツの安否確認事業LSAが連携し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる支援を実践していく。特に、地域の自治会や老人会、学校関係や諸団体との協働と積極的な地域行事への参加により、地域に根付いた施設運営を目指す。</p> <p>2. 財政基盤の確立：安定した経営を行うために、財政基盤を確立する。当施設は、地域から光朔会に依頼があつて開所された経緯もあり、地域からの注目度も高い。日々の取り組みを法人の羅針盤に照らし合わせながら、徹底した情報収集と迅速な対応、コストの見直しと、新たなニーズの発掘を実践し、健全な運営を目指す。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開：法人内の取り組み、講演会、イベント、就労支援事業所の開所等の情報発信を行い、地域との架け橋を担う。一人でも多くの方が、光朔会の働きを通して、その人らしく輝ける場に出会える切っ掛けになるよう、努める。地域の諸行事に積極的に出掛けたり、社会資源の活用、健康野菜市等、ボランティアの方の受け入れも積極的に行い、地域との繋がりを深め、開かれた施設を目指す。</p> <p>4. スタッフの資質向上：個別ケア・チームアプローチにより、これからの高齢者ケアのあり方を実現することにより、利用者一人一人にあわせた関わりを行い、いつまでもその人らしい暮らしを送る手伝いを実践する。自分達で学びの機会を持ち、法人内のスケールメリットを生かした他施設のスタッフとの情報共有の場を設け、切磋琢磨できる環境を生かし、大切にしていく。グループダイナミックスの効果を意識した利用者スタッフの日々の取り組みの中に、多くの役割と責任を担い、それを、皆で楽しめるようなチャレンジを実践していく。まずは、利用者一人一人の声に耳を傾け、それを実現する為のチャレンジをしていく。</p> <p>5. 新たなプロジェクトの発掘：スピードとチャレンジの精神で、ニーズや社会の情勢に応じた可能性を検討する。地域に出掛け、地域の声に耳を傾け、地域の一員として、自分たちに、「今、何が出来るか」を見極め、固定観念にとらわれることなく、新しいことへチャレンジしていきたい。八代 斌助主教の精神「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」をキーワードに置き、キリスト教精神に基づく愛の実践を行う。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くし、善き隣人になれるような、光朔会の一員としてのミッションを実践していく。</p>		

## 事業計画

2013年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	黒田 牧夫
事業目標	1. 地域に根付き更に地域に求められる小規模多機能ホームの定着 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの資質向上 4. 地域との協働				
事業計画					
1. 地域に根付き更に地域に求められる小規模多機能ホームの定着:開設4年目を迎え小規模多機能ホームの存在が、地域の中で根付いてきている。地域の自治会、児童館、公民館、老人会、保育所や幼稚園、学校等の地域団体と更に交流を深め、更に地域に溶けこんでいく。					
2. 財政基盤の確立:地元地域の方々の利用割合を更に増やし、平均介護度目標を要介護2とし、財政基盤を確立する。					
3. スタッフの資質向上:ノーマライゼーション社会の実現を目指し、利用者、スタッフが共に「ふつうの生活」を送り共に暮らす土壌づくりに更にチャレンジしていく。					
4. 地域との協働:地域の方がいつでも気軽に立ち寄ることができ、話をし、お茶を飲んでいける場づくりを更に進めていく。すべての人が、いつまでも住みなれた地域で輝いて暮らしていけるよう地域とともに歩んでいく。					

社会福祉法人光朔会

## 事業計画

2013年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	西川 晃
事業目標	1. 理念を遵守し、皆の希望に挑戦する 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの定着と資質の向上 4. 地域と共に歩む				
事業計画					
1. 理念を遵守し、皆の希望に挑戦する:理念を遵守し、「生活の主人公は利用者ご本人です」を念頭に置いた関わり、お一人お一人が安心できる「生活の場」を提供していく。利用者を「よく知る」ことにより、持てる能力を引き出す「その人らしい」生活を送るお手伝いをする。日々の利用者の声に耳を傾け、利用者・スタッフが皆で挑戦することを通し、各々が役割と責任を持つ。グループの持つ力で、皆の希望を実現していく。					
2. 財政基盤の確立:利用収入目標 107,690千円。平均要介護度 3.5~3.7。入院者が出た際には、空床ショートでの迅速な対応を行う。年間の稼働率98.0%を目標とする。					
3. スタッフの定着と資質の向上:ユニットリーダーを中心とし、ビジョンを掲げ、日々の取り組み、入居者に寄り添うケアを自分たちで学びながら、実践していく。法人のスケールメリットを生かし、他施設との情報共有や切磋琢磨する機会、悩みをシェアする場を増やす。また、資質の向上を通して、スタッフの定着を促していく。					
4. 地域と共に歩む:地域の高齢者の相談窓口としての位置づけと、友人の家に遊びに行くような感覚で、自由に出入り出来る環境作りを心掛ける。地域の行事に積極的に参加し、繋がりを深めていく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2013年度

施設	オリンピック神戸西	部門	居宅介護支援事業所	報告者	芦田 智子
事業目標	1.地域高齢者等からの総合相談窓口としての確立 2.財政基盤の充実 3.他部門と地域との架け橋となる連携活動を行う				
事業計画	1.地域高齢者等からの総合相談窓口としての確立:公平中立な視点を持ち、保険・医療・福祉の関係機関や民間の諸団体とのネットワークを構築し増進させる。また、地域の高齢者に対しての様々な相談に柔軟に対応し困難事例へも積極的な関与により地域から信頼を得る事や他部門と連携する事で神戸西の機能を最大限に活用し高齢者が地域で安心して生活できる環境を整える。 2.財政基盤の充実:毎月の稼働率が95%を維持する事で、安定した収入を確保することができる。また必要経費を最小限に止めることにより効率的な財政基盤の充実を図る。 3.他部門と地域との架け橋となる連携活動を行う:地域の高齢者に対して行われている様々な地域活動に参加する事により、神戸西の存在を地域に対して広く情報発信し多角的に地域との信頼関係を構築する。地域の相談役を担っている圏域地域包括支援センターや民生委員等との連携を密にし、地域住民の介護相談窓口としての位置づけを確立し、神戸西の発信を継続的に行うことにより地域と各部門との架け橋となるような活動を行う。居宅介護事業所が最初の窓口となりつつ地域との積極的な関わりを持ち事業展開を拓ける架け橋を担う。				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2013年度

施設	オリンピック神戸西	部門	LSA	報告者	西川 晃
事業目標	1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立 2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開 3. 財政基盤の確立 4. あくなき挑戦による資質の向上				
事業計画	1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立:シルバーハウジング入居者への支援。生活相談、安否確認、コミュニティづくりに役立つ支援。一時的な家事支援、緊急時の対応、関係機関等との連携、その他日常生活に必要な支援。 2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開:神戸市の委託事業所としての、公正且つ中立的な業務運営を確保する。公平中立な視点を持ち、保険・医療・福祉の関係諸機関や民間の諸団体とのネットワークを構築し、高齢者をはじめとした地域住民が「いくつになっても安心して生活できる地域」づくりに努める。専門的な立場からの社会資源の情報提供の発信源を担う。法人独自の企画・運営を実践していく。 3. 財政基盤の確立:利用収入目標 4,100千円。コミュニティづくり事業を積極的に行う。 4. あくなき挑戦による資質の向上:神戸市主催の定期的な講演会並びに研修会の企画・運営に積極的に携わる事により、専門職の更なる資質の向上を図る。オリンピック神戸西との連携を保ち、地域へ認知症についての情報を発信していく等、新しい取り組みへの積極的な挑戦により、更なる資質の向上を図る。				

社会福祉法人光朔会

施設	都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全な育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 地域への貢献 4. 職員の資質の向上		
概要			
<p>都児童館は社会福祉法人光朔会のもとで2013年度2年目を迎えます。オリンピアの理念を深く理解するとともに利用者ひとりひとりに心の目を向け、常に一對一で接することを基本とします。児童館としてできることにオリンピアの理念に則ってひとつひとついねいに取り組んでいきます。</p> <p>当児童館は乳幼児の親子から地域自主グループの高齢者までが利用する館となっておりますのでその特性を十分に活かせるように、また長く利用して頂けるように今までの活動を土台として新たなプログラムを積極的に取り入れ、更に地域に根ざし、愛される児童館として成長できるように努力します。</p> <p>そして、オリンピアの取り組みについて地域にきちんと発信していきます。</p>			
事業計画			
1.児童の健全な育成			
○「健全な遊び」を通して異年齢児との交流を図る。			
○大人や高齢者の方たちと一緒にを行う活動・親子で参加する活動・合同行事などを通じて「集団モラル」を学ぶ。			
○思いやりの心や自主性・創造性・社会性を高め、子どもの心と体の健康増進を図るために日常の活動に加え			
毎月の行事や季節の行事を行う。			
2. 子育てと家庭の支援			
○地域における子育てと家庭の支援のために下記の事業を実施する。			
・すこやかクラブ ・キッズクラブ ・なかよしひろば(赤ちゃんタイム・1歳児タイム) ・親と子のふれあい講座			
・児童館子育て相談 ・子育てコミュニティ育成事業 ・子育て母親対象講座			
3.地域への貢献			
○地域交流コーナーにおける自主グループの活動が円滑に行えるようにする。			
○地域団体や地域住民と連携し、地域住民が年齢の枠をこえてふれあう交流活動に取り組んでいくことで地域			
社会の機能の充実の一助となるよう努力する。			
○子育て支援・家庭支援につながる地域社会を目指すために、地域交流事業の推進を図り、温かい雰囲気の中での場の提供に努める。			
4.職員の資質の向上			
○光朔会オリンピアの一員であり、児童館職員であるという自覚と責任をもって行動する。			
○利用者と接するときは年齢にかかわらず、目線を合わせ一對一の対応をする。(利用者全体の中の一人という捉え方ではなく、相手の立場に立つこと、尊重することを基本とする。)			
○地域の方・利用者の方に信頼され、ひとりひとりが大切な人材であるという認識をそれぞれがもてるような組織づくりをする。			
○定期的に研修に参加し、他の児童館職員と情報交換するなど向上心を常にもてるようにする。			

施設	障害者就労支援センター オリンピア岩屋	報告者	管理者 阪田 昌三
事業目標	1.事業所の新スタッフ体制の構築 2.利用者増員への取り組み 3.利用者支援の向上 ----- 4.農作業の拡大と商品開発及び販売 5.地域でのネットワーク作り		
概要			
<p>昨年オープンから1年が過ぎ、オリンピア岩屋としてのイメージが徐々に定着しつつある中で、4月にオリンピア住吉がオープンとなり、スタッフの異動、メンバーの異動があり、新たな出発の時である。</p> <p>一年間で培ってきたノウハウを活かし、振り返るべき点は初心に戻り前進して行く。オリンピア住吉との連携を密にし、作業の分担、メンバー同士の交流などお互いの事業所にとって有益であるように目指す。</p> <p>始まったばかりではあるが、オリンピアの障害者部門が周囲に評価を得られるように、地域や他事業所等の関係作りを強化していきたい。</p>			
事業計画			
<p>1.事業所の新スタッフ体制の構築:住吉がオープンする中で職員の異動で再スタートを切るわけで、メンバーとの関わりは今までと変わらない状況を維持できるようにサービス提供に従事する。</p> <p>また、就労部門に置いては従事するスタッフは福祉の知識のみならず、デザインや商品を作るなど販売者としての知識やスキルの研鑽を目指していきたい。</p> <p>2.利用者増員への取り組み:広報による募集方法はもとより、クチコミ手段として区役所、灘地域生活支援センター、社会福祉協議会、民生委員、ハローワーク、障害者事業所などとの関係を深め、情報提供や利用者の紹介など積極的に働きかけていく。また、近隣関係にある青陽東養護学校との関係は重要なものとして捉え、毎年卒業生を受け入れる体制を築くことで安定した利用者数の確保を行う。</p> <p>3.利用者支援の向上:作業中心の日中活動が定番となりつつあるが、利用者の年齢層も幅があり、一般企業に就職されていた方、特別支援学校卒業後すぐの方など、社会経験も異なるので個々に応じた社会人としてのマナー支援も利用者本人と相談する中で、ニーズに答えていきたい。また、作業中心ではなく、レクリエーションなど余暇活動の企画も盛り込んで日中活動を充実させる。</p> <p>4.農作業の拡大と商品開発及び販売:昨年一年間で岩屋で取り組める農作業のイメージと感触がある中で、昨年作った玉ねぎ、黒豆などを商品定番化、安定した生産数を確保し、販売を促進する中で利益増収を狙う。また、丹波産減農薬米も好評なことを強くアピールし、新たな販路拡大を目指して、お米の受注で増収を図る。</p> <p>5.地域でのネットワーク作り:ひと・モノが行き交う場として岩屋はアピールをして行くためには、地域でのネットワーク作りが必要になってくる。隣近所とのコミュニケーションも最近になって「あいさつ」から「世間話」に変わってきているので、地道な小さなコミュニティーの積み重ねを改めて大切にしながら、ご近所さん、町内会など地域に愛されて、可愛がられる事業所を目指す。</p>			

施設	発達障害者サポートセンター オリμπピア住吉	報告者	センター長 藤原 一秀
事業目標	1. 「障害者就労支援事業」の確立 2. 地域・地方との交流 ----- 3. 作業内容と販路の充実 4. 職員資質の向上		
概要	<p>発達障害者サポートセンターとして発達障害の方一人ひとりに障害の特性を活かしながら、得意なことを見つけて次のステップへ進んでチャレンジしていけるように支援する。</p> <p>また、作業で制作されたものを中心として、教育や福祉、地域の現場に携わる方とのを繋いでいき発達障害の理解を深める活動をオリμπピア住吉として発信していく。</p> <p>障害者就労部門が2事業になることで、相互の協力とより地域に密着した関わりを強みにして地域に根ざす。</p>		
事業計画	<p>1. 「障害者就労支援事業」の確立</p> <p>○通所者の目標や期待に作業を中心とした幅広い活動で応えられるよう常に備える</p> <p>○地域の一員として活動できるよう日々のつながりを大切にする</p> <p>○関係機関・団体との連携できるよう積極的な情報交換を行う</p> <p>○法人内における障害者部門の役割を意識し、より多機能で総合的な福祉活動を目指す</p> <p>○発達障害の方への情報発信など、インフォーマルなサービスの提供</p> <p>2. 地域・地方との交流</p> <p>○地域の行事等への積極的な参加</p> <p>○日々の作業がわかる商品販売などのイベント実施</p> <p>○様々な広報活動と見学・体験の受け入れでオープンな施設を目指す</p> <p>○丹波地域との連携により広域な交流を図る</p> <p>3. 作業内容と販路の充実</p> <p>○やる気と自信を持って取り組める作業内容を確立する</p> <p>○多くの方のアイデアを形にするようなオリジナル商品の開発</p> <p>○それぞれの能力にあった作業ができるよう機器の開発、改造を行う</p> <p>○妥協しないモノ作りと適正な価格で工賃アップを図る</p> <p>○岩屋と住吉間での作業協力と役割を明確にし、効率化を目指す</p> <p>4. 職員資質の向上</p> <p>○障害者支援に関する研修、講演への積極的な参加</p> <p>○作業工程の分析、明確化の技術を向上させ、わかりやすい就労支援に努める</p> <p>○福祉職であると同時に、製造、販売業でもある意識を持つ</p> <p>○作業技術(編集、印刷・木工機器、農園芸)の向上及びオリμπピア岩屋との役割分担</p>		